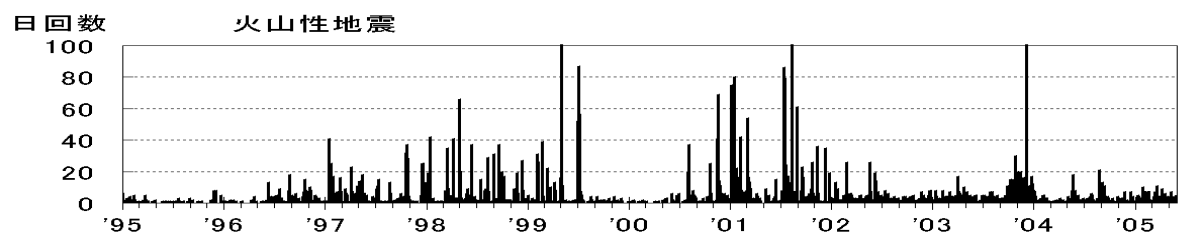
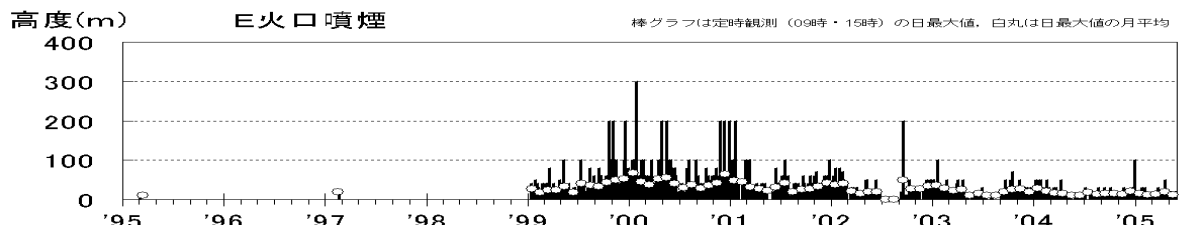
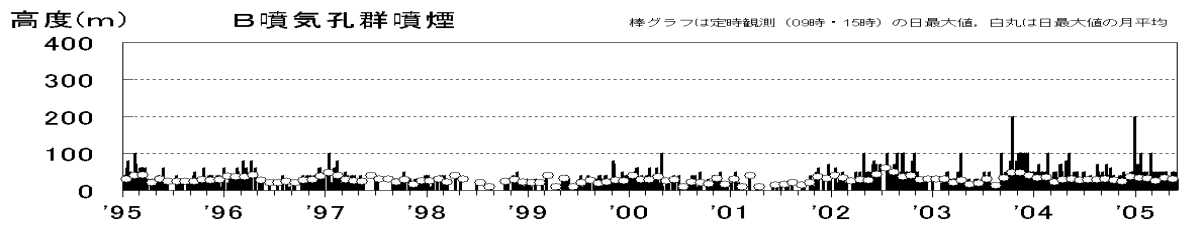
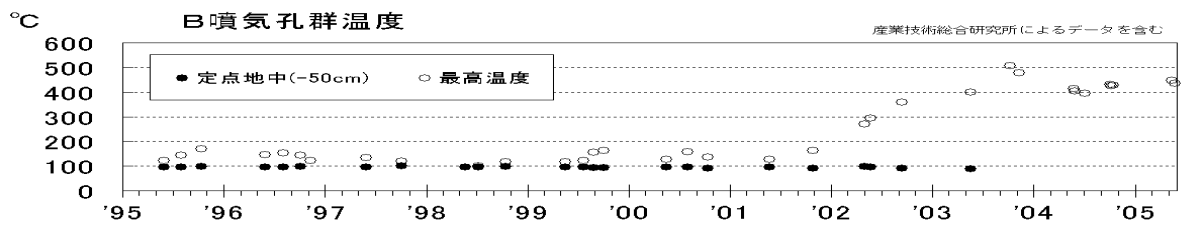
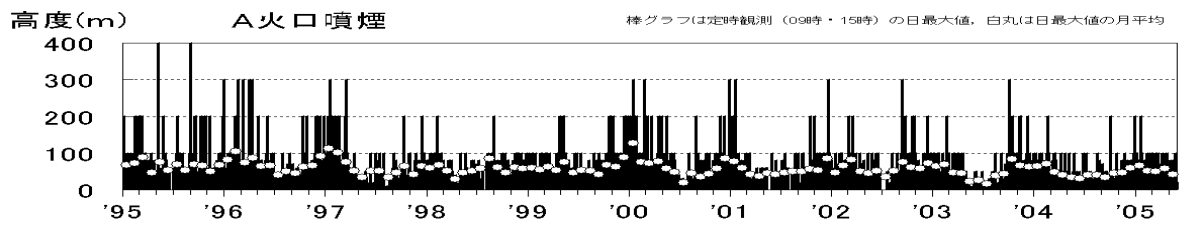
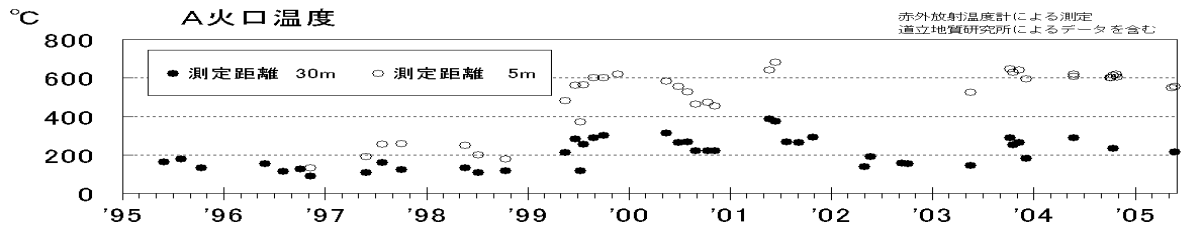


樽前山

1 概況

25～26 日に実施した調査観測では、各火口の状況に変化はありませんでした。A 火口やB 噴気孔群は高温の状態が続いており、火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。



最近の火山活動経過図（1995年1月1日～2005年5月31日）

2 噴煙の状況

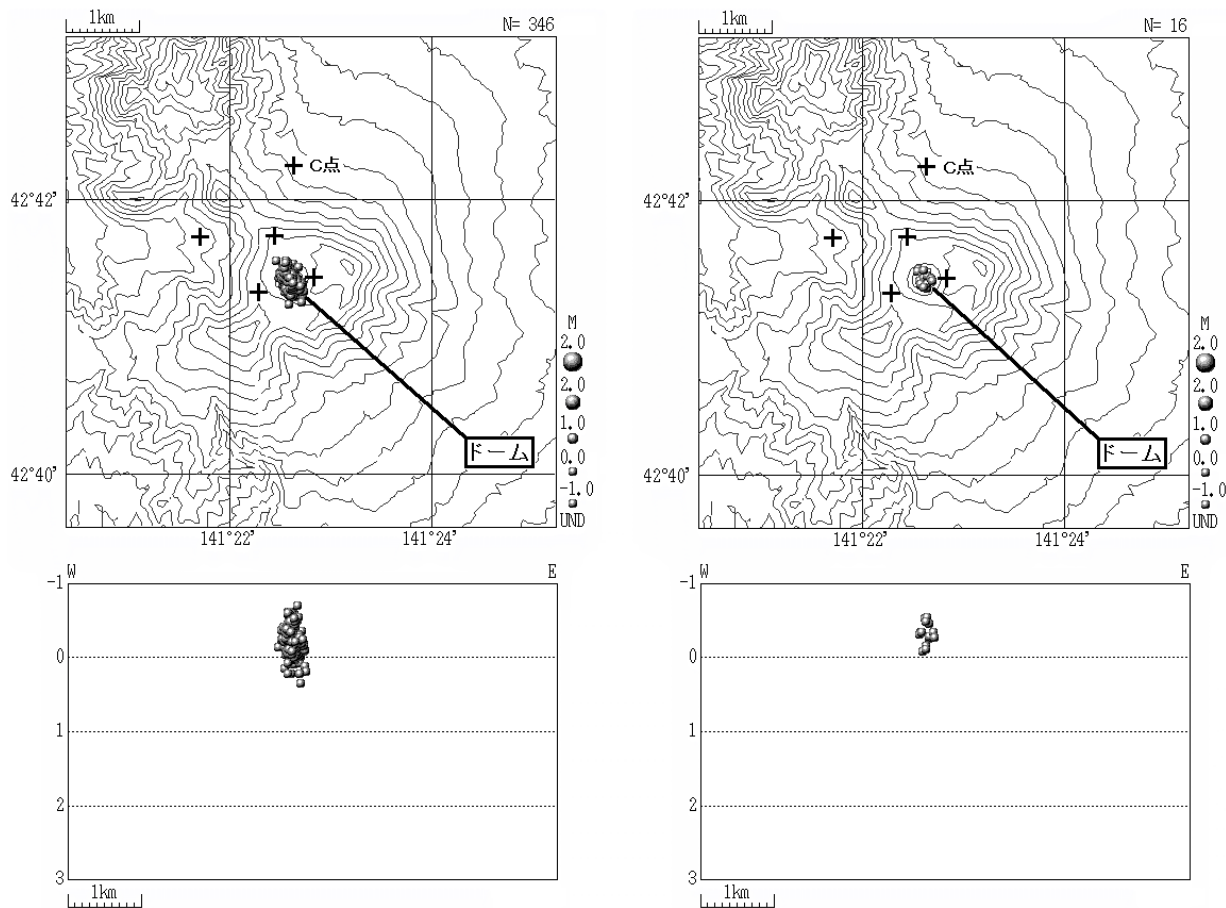
各火口の噴煙の状況は前期間と大きく変わらず、噴煙の高さは火口縁上おおむね 100m以下で推移しました。

3 地震および微動の発生状況

火山性地震は1日あたり0~7回とおおむね平常レベルで経過しました。震源はこれまでと同様、山頂火口原浅部に分布していました。火山性微動は観測されませんでした。

地震・微動の月回数(C点)

2004~2005年	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
地震回数	34	44	46	81	24	39	25	55	59	77	62	46
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



樽前山の震源分布図(丸印:震源、+印:地震観測点)

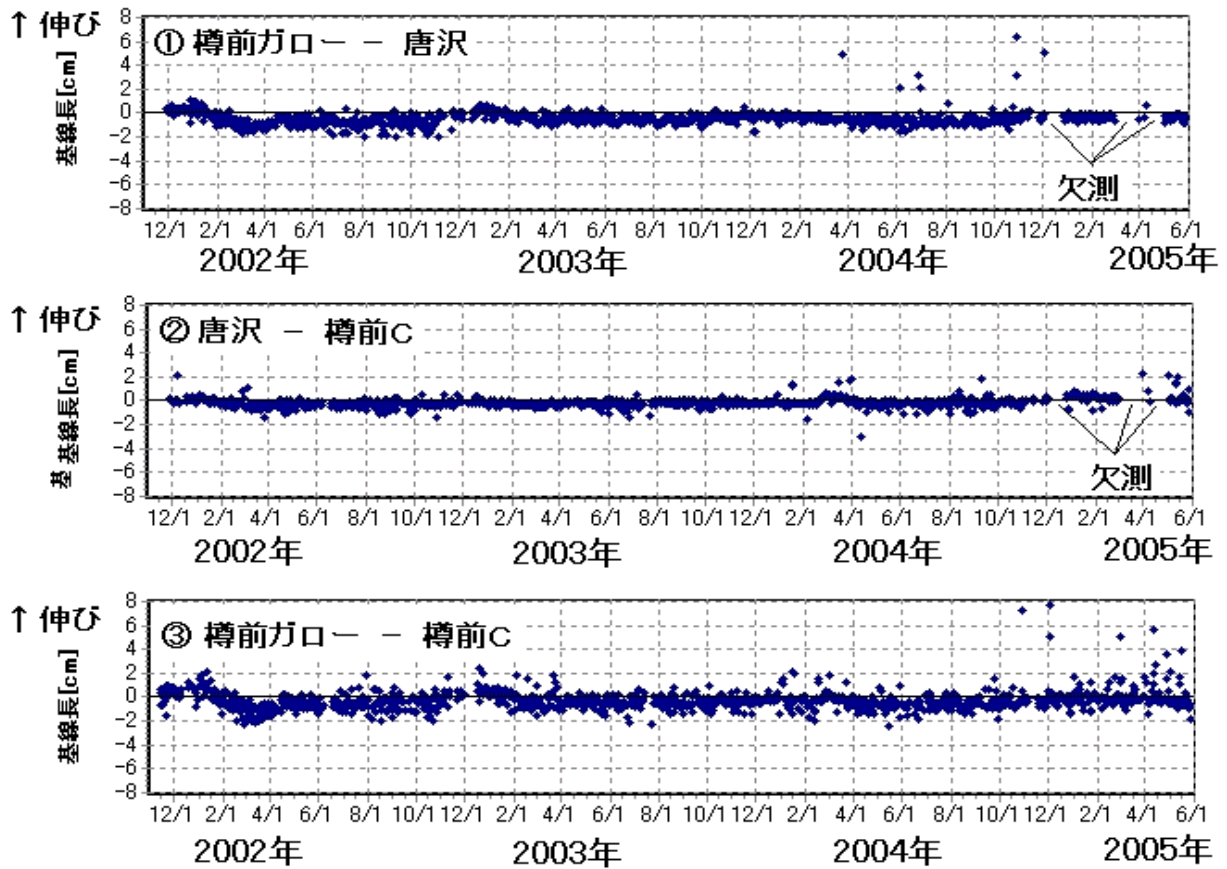
右図は今期間(2005年5月1日~31日)に求めた震源を示しています。

左図は前期間までの11ヶ月間(2004年6月1日~2005年4月30日)に求めた震源を示しています。

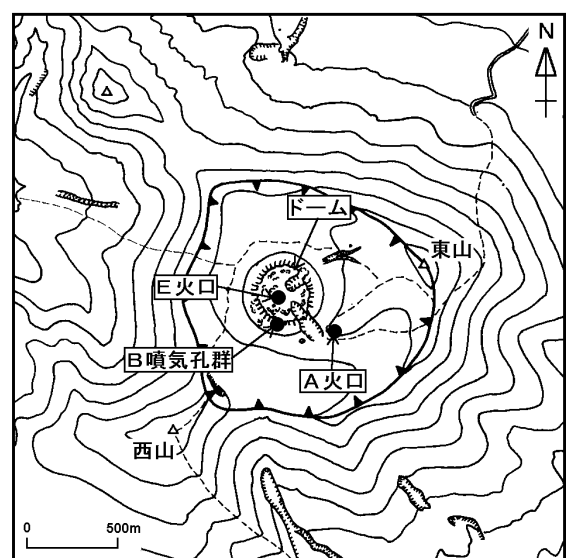
震源は山頂ドーム直下の海面付近に集中しており、今期間の震源もこの領域内に分布しています。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、一部観測点に欠測がありますが、火山活動に関連すると考えられる変動は認められません。



基線長変化(2001年11月14日~2005年5月31日)



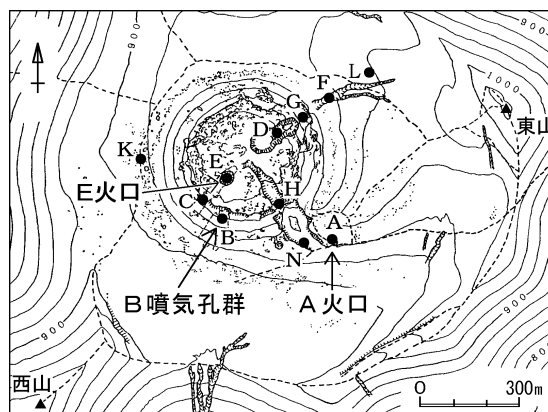
樽前山山頂火口原図

4 調査観測の結果

5 月 25～26 日に調査観測を実施しました。A 火口および B 噴気孔群では高温の状態が継続しています。

【A 火口】

噴煙の勢いは弱いものの、強い SO₂ 臭が認められました。赤外放射温度計*で測定した火口温度は約 560（前回 2004 年 10 月 25 日：約 620）と、依然として高温の状態が継続しています。



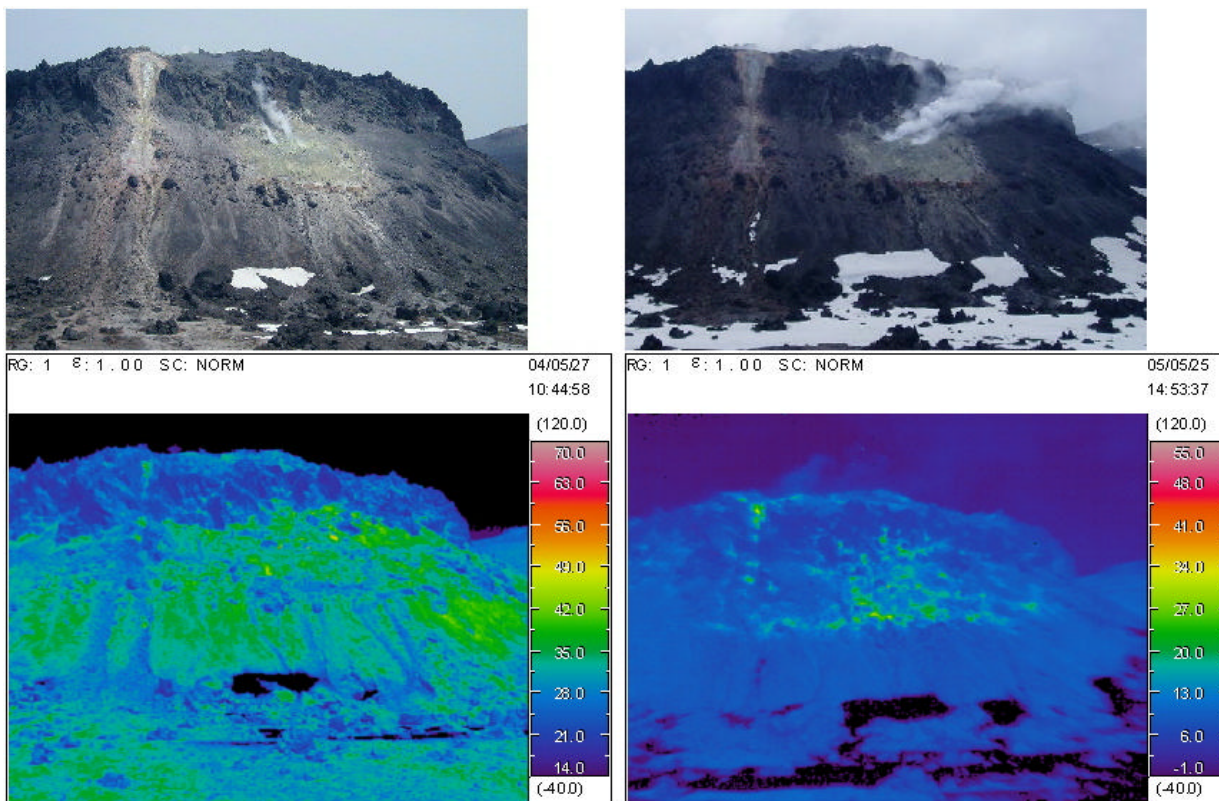
樽前山山頂ドーム周辺図（A～N：調査観測ポイント）

【B 噴気孔群】

複数の噴気孔から白色の噴気を勢いよく噴出し、強い SO₂ 臭が認められました。最高温度は約 430 と、前回（2004 年 10 月：約 430）同様に引き続き高温の状態が続いています。赤外熱映像装置*による観測では、新たな高温域は認められませんでした。

【その他の火口・地熱域】

特に変化はありませんでした。



B 噴気孔群およびドーム南西亀裂の表面温度分布（左図：2004 年 5 月、右図：2005 年 5 月）

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。